

地方財政に関する総務大臣・地方六団体会合についての
地方六団体会長共同記者会見概要（未定稿）

日 時 平成20年11月6日（木）16：40～17：05
場 所 都道府県会館6階 知事室
出席者 麻生全国知事会会長
中川全国知事会事務総長

（事務局）

ただいまから、地方財政に関する総務大臣・地方六団体会合について、六団体を代表して、麻生知事会長の記者会見を始めさせていただきます。

それでは麻生会長お願いいたします。

（麻生全国知事会会長）

今日は地方六団体として、総務大臣と会合をしました。鳩山総務大臣になられて、初めてのことです。その前に地方六団体として会ったことがあるのですが、会合という格好では初めてです。

ここで主として議論したことは、一つは今回の緊急経済対策について地方側としては、非常に地方重視というかたちで対策が講じられることを高く評価しますということ。二番目に最近の地方経済が非常に悪くなりつつあることを考えると、早急に実現、実施することが是非必要になってきている。早期実施ということで、進めていただきたい。

私共の方として、申し上げたのは、一つは地域活性化・生活対策臨時交付金が6000億です。これは、地方の現状から見て、臨時交付金を使っていろんな事業をやっていくということは、非常に有効な対策になりうるので、是非、実現を早くしてもらいたい。その場合に、どの範囲の事業を想定するのか、これがまだはっきりしていません。この範囲を出るだけ広くとってもらいたい。これしかやれないとなると、機動的に事業ができなくなるということがあります。使いやすい、スピーディーに使えるよう広い事業を対象に行えるようにしてもらいたいと特に申し上げました。

これとの関係で、地方公営企業等金融機構の方から、財源を、金利変動準備金を3000億取り出して、これに使うという話が鳩山大臣からありました。この点については、第一に金利変動準備金というのは、金利変動に備えてずっと地方側が貯めてきたお金です。従って、今回取り出すことになったこと事態はやむをえないと考えますが、どこまでもこれは地方のお金である。地方に役立つように使うという考え方を貫いてもらいたい。

もう一点は、準備金がなぜあるかということ、機構が市場から資金を調達する場合に非常に重要な信用のベースがある。従って信用の基礎が損なわれないようにやっていく必要がある。今回は10月に国の機関から地方に移行したのですが、その時には3兆円ちょっと

のお金が必要である。信用を維持しながら、資金調達を円滑に進めていくという計算で移ったのですが、その後、金利低下がずっと続いています。その結果、金利差があり、このお金がさらに積み上がるということですから、既に積み上がった分が700～800億円。今後積み上がる分を計算して3000億出すということにしたわけです。

もう一つ関連して、地方公営企業等金融機構は、地方の財政から言うと、特別会計です。下水道整備とか、ゴミ処理場あるいは地下鉄とか特別会計の資金調達のための機構になる。この度は、一般会計分についても資金調達できるような機構を考えたらどうかという議論が提議されている。この点、我々は基本的に非常に歓迎します。

一般会計については、今大きく二つの方法でやっている。

一つは、市場調達を直接都道府県が行うという公募型で行う。もう一つは財投資金の借入れという格好で、各地方団体が行っている。ただ、市場調達に段々移っていますが、その場合では市場での信用が非常に大事になってきます。

この点は、市町村になるとなかなか大変であるということがありますから、機構を通じて、一般会計も資金調達ができるということは、特に市町村にとりまして大きな意義があるということで、是非、実現をしてもらいたい。その場合には、新しい機構というよりも、現在の機構に業務を新たに追加するという形が最も効果的というか、有効なやり方ではないかということを中心として主張しました。

次の点は、道路特定財源の見直しです。一般財源化に伴ういわゆる一兆円の地方への一般的な財源としての移転、交付ということについて、我々は、いわゆる外枠である。道路臨時交付金約7000億とは別のものである、そうしなければ、地方の財政対策にならないということで、外枠、別枠ということを中心として強く主張しました。

これまでの道路関係の財源として、地方へ配分されている総額3.4兆円については、地方枠として必ず確保してもらいたい。また、地方道路整備臨時交付金は、一般財源化ということで、道路に特化した使い方はできないということになっていくわけですが、かねて7月の知事会議で提案をしていますが、地方活力基盤創造交付金ということで、道路を含めて、地域の活性化投資に広く使えるようにするような考え方をとってもらいたいということを中心として主張しました。

この点について、総務大臣は非常によく分かっておられて、別枠ということを中心として努力をするということを中心として示されました。

もう一つ、特に市町村の皆さんから強く言われましたのは、いわゆる定額給付金です。定額給付金については、実際の給付事務を実際に市町村で行うということが予定されていますが、実際の給付事務は非常に膨大な事務になっていくことが予想されるということがあり、早くやらなくてはいけないということまで考えると、制度はできるだけ簡素なものでしてもらいたいという点と、もう一つは膨大な事務費がいる、前の地域振興券も相当な事務費がかかっていますが、事務費の手当てもきちっとしておくべきであるという話をしました。

これについては、総務大臣は給付を具体的にどういう基準でやるかということは、政府内でいろんな議論がなされているということで、議論を経て最終的に決めていきますが、地方側の希望なり要望はよく分かるので、十分に配慮しながら実際のスキームを決めていくということでした。

そのほかに、地方分権改革について話をしました。今日は麻生総理と丹羽地方分権改革推進委員長がお会いになり、そこに総務大臣も同席したということで、その模様についても一部話がありました。いずれにしても、地方分権改革はしっかり実現するように総務大臣としてもやってほしい。今回の大きな目標となっている地方支分部局の統合、廃止もちゃんとやっていかなければいけないと考えて、今後、進めていきますということでした。

そのほかに総理が、景気が回復した場合、消費税の増税ということを明言をされています。これについては、消費税の増税と言った場合には、必ず地方消費税の引上げを求める、地方消費税についても、まず考えてもらいたいと申し上げた。

そのほか、党の方では、自民党では保利政務調査会長、園田政務調査会長代理に会いました。今申し上げた6000億の臨時交付金の使い方を幅広くやってもらいたい。それから、道路特財の1兆円は別枠ということで是非お願いしたいという点、給付金については簡素なやり方をしなければ、非常に事務が大変になって素速くできないという点を理解していただきたいという点を話しました。

それから、地方公営企業等金融機構での一般会計の債券の発行についての新しい機構を作るというようなことについて、意見を交換しましたが、先ほど申したように、今ある機構に業務追加をすることが一番合理的ではないかという話をしたという状況です。

1兆円の別枠追加の話につきましては、これは大変な話だということでした。これは、税の関係者、財政の関係者、党内よく議論をしながら進めていきたい考えで、議論を経て最終的に結論をだすということになりますということでした。

その他に、公明党は山口政務調査会長に会いまして、今申し上げた3点を中心に話をしました。

総理官邸の方では、山口俊一内閣総理大臣補佐官にも同じような話をしました。

以上が活動の状況ですが、もう一つ、先ほどちょっと話をしましたが、丹羽地方分権改革推進委員長が今日は総理大臣とお会いになったということで、どんな話の中身であったかということについては、丹羽委員長に私が確認をしましたが、だいたい一般的に報じられている内容と同じであり、地方支分部局も思い切った改廃をしていく。特に具体的な名前がでたのは、農政局と地方整備局であるわけでしたが、これは一つの中心的なテーマであるが、丹羽委員長は他の分野でも必要なところはちゃんとやっていくんだということを強調されておられました。

もう一つ、総理との間では、人を移すということは非常に大変なことで、本人のこれまでの生活、人生とかあるので、余程周到なことでやらなくてはいけないということを強調され、総理もそういうことについては、強く自分の経験に照らしてということ、同意を

されておられました。

いずれにしても、総理、丹羽委員長共に、思い切って地方支分部局の改革を行って、二重行政あるいは実態に即した、これは非常に総理が強調されたようですが、国の機関では、地方に実態があったことは分からないではないか。思い切って地方に任せた方がいいんだということで、その方向でやっていくという大きな合意がなされたことは非常に重要な成果であると思っています。

<質疑応答>

(記者)

最後におっしゃいました総理の指示の関連ですが、農政局、整備局の具体名をあげて統廃合を検討すべきだと、総理自身が言っていましたが、これについては改めて地方側の全国知事会長としての受け止めと、整備局については現在、都道府県と道路河川の移譲について交渉を具体的にやっています。

整備局の機能をどの程度縮小できるのかというのは、交渉でどこまで都道府県に河川、道路の権限が移るにもよるかと思いますが、現状聞いていると都道府県側の姿勢も含めてなかなか芳しくない。国交省と都道府県の交渉の現状と麻生会長の感想を聞かせてください。

(麻生全国知事会会長)

農政局、整備局というのは、具体的な名前としてあげられていますが、この二つだけでやるというだけの意図でやるというわけではないと理解しています。そのほか、労働関係等々他の分野もずっと検討されてきていますから、今回の地方支分部局の大きな改革というのは、この二つに限らず、他の分野においても当然行われるべきであるというふうに考えています。

今の整備局の関係ですが、非常に重要なポイントで現在の河川なり道路の移管については、都道府県の中だけに限った話でだんだん押し込めようと、これではブロック機関である整備局の大きな改革なりになっていかないというふうに思います。

例えば、道路は県境を越えて、県ごとに担当して管理して、繋ぎの所は総合調整するか連絡会議をやるとかで充分やっていけると思います。県内では、例えば国道があって、県道があっても管理者が違っていても、ちゃんと繋がって活動しているということですから、思い切って範囲を広げるということをやる必要があると思います。

(記者)

1兆円の道路財源からの地方への配分の関係ですが、鳩山総務大臣から別枠は別枠だが、交付税でやりたいと話があったと思いますが、一方で地方分権改革推進委員会で税源移譲

という案がでていますが、変わり方についての麻生会長の意見はどうか。

(麻生全国知事会会長)

税源移譲が理想的ですが、現在の状況で税の体系を思い切って変えて、地方財源に移すということは、税の抜本的な改革議論の時に一体とすることは可能だと思います。この部分だけ取り出してやるということは非常に難しいのではないかというふうに思っています。従って、あるいは非常に望ましい理想の方向ですが、今みたいに来年度予算を控えてどうするかということになった場合には、やはり税に将来は移していくんだということを大前提としながら、交付金、交付税というような格好でしていくのが、時間的な制約からしてあるいは、他の税目の関係からしても、現実的な案ではないかというふうに思っています。

(記者)

青森県の三村知事が定例記者会見で、青森県の一級河川である高瀬川について、国が管理すべきであると発言して、移譲を拒否するような発言をしていました。これに対して、麻生会長はどのように認識していますか。

(麻生全国知事会会長)

これは、どのような状況で言われたか分かりませんが、青森県も河川については自分達でやるという決意で、分権の精神でやってもらいたいと思います。

(記者)

他の県でも国が管理すべきだという意見も考えられますが、その場合、知事会としてどのように対応しますか。

(麻生全国知事会会長)

それは、各県で交渉していますから、いろんな実態の中で意見がでてくるとは思いますが、基本は分権の精神でやってもらわないといけません。この原点を忘れないようにしなくてはいけない。

(記者)

第二次勧告までに、道路、河川の協議がまとまりますか。

(麻生全国知事会会長)

できるだけそこまでやりたいと思っているのですが、実際にはそれぞれ考え方の調整が非常に違ってきている部分もありますから、なんとかやっていきたいと思っています。例えばさっき言った道路も、あまりにも押し込められた格好でセットするわけにはいかないと思

いまして、時間的な制約もありますが、思い切って本当の意味で権限移譲が進むという広い範囲で移譲の枠組みになるようにしていかなければいけないと思います。

従って、来月早々には出そうかというときに中身が全部セットされているかどうかは、なかなかそこまでいってないかも分かりませんが、考え方は思い切って幅広く移すということやっていかなければならないと思っています。

(記者)

第二次勧告以降も追加的な協議になると思いますが。

(麻生全国知事会会長)

第二次勧告になるのか、それ以前にまたこの分野について勧告がでるのか、まだよく分かりませんが、地方分権改革推進委員会側も、今の話し合いの状況については、非常に憂慮しているという状況です。場合によっては、とり急ぎ追加的な勧告がでるかも分かりません。この部分についての勧告と全体的な勧告の問題があるわけです。

(記者)

道路臨時交付金は別枠で7000億ということですが、道路整備の主旨が一般財源化によってなくなる以上、交付金7000億を求める論拠というのは、どう考えますか。

(麻生全国知事会会長)

交付金を道路だけの交付金という格好で、維持するということは難しいのではないかと。7月の全国知事会議の時には、もう少し幅の広い地方活力基盤創造交付金というようなことで、道路ばかりでなく他のインフラとか、他の地域振興になるようなことも使えるような形でやっていくというような性格の交付金に変えてやろうという提案をしていますが、このような考え方が、一番合理的だと思います。

—以上—